



○感染が妊娠や胎児に与える影響○

- 妊娠中に新型コロナウイルスに感染しても、基礎疾患を持たない場合、その経過は同年代の妊娠していない女性と変わらないとされています。しかし、妊娠後期に感染すると、**早産率が高まり、患者本人も一部は重症化することが報告されております。**
- 高年齢での妊娠、肥満、高血圧、糖尿病などが新型コロナウイルス感染症の重症化のリスク因子であるという報告もあり、このような背景を持つ妊婦の方は、特に人混みを避ける、こまめに手を洗うなど感染予防に注意をしてください。
- 新型コロナウイルスに感染した妊婦から**胎児への感染はまれ**だと考えられています。
- 妊娠初期または中期に新型コロナウイルスに感染した場合に、**ウイルスが原因で胎児に先天異常が引き起こされる可能性は低い**とされています。

○新型コロナワクチン○

- 日本で承認されているワクチンが**妊娠、胎児、母乳、生殖器に悪影響を及ぼすという報告はありません。**
- 妊娠中、授乳中、妊娠を計画中の方も、ワクチンの接種勧奨の対象としており、**時期を問わず接種をお勧めしています。**

参考) 妊娠中等の新型コロナワクチン接種についてのQ&A

<https://www.cov19-vaccine.mhlw.go.jp/qa/0027.html>



○新型コロナウイルス感染症治療薬について○

- 新型コロナウイルス感染症治療薬の中には、妊娠中に内服することの安全性が確立していない薬もあります。治療方針の決定に関わるため、妊娠中・妊娠の可能性がある場合や妊活中の場合は、診察を受けたとき等に医師や薬剤師に相談してください。

参考) 妊娠と薬
(厚生労働省HP)

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/iyakuhin/ninshin_00001.html



参考) 妊娠と薬情報センター
(成育医療研究センターHP)

<https://www.ncchd.go.jp/kusuri/>

